



NPO 法人日本自立生活センター

WORK'S (共同作業所)

〒601-8036 京都市南区東九条松田町 62

TEL.075-682-3201 FAX.075-682-3330

ホームページアドレス, <http://www.mediawars.ne.jp/~saba/>

Eメールアドレス, saba@mediawars.ne.jp

第50号 編集責任者 大崎 雅彦

新年度に向けて

年度が代わろうとしている3月末、新しい年度に向けて、所員の面接を行った。作業所内で困っていることはないか、今年度はどうだったか、来年度やりたいことはどんなことかなど、所員の思いをじっくり聞く機会を作っている。日頃はあまりゆっくり話が出来ない所員からも、日頃感じていることなど、時間をかけて伺う。所員一人一人と1年を振り返る。どの所員も、自分の言葉で、自分の想いを表現してくれる。そして「ああ、そうだったな。」とか「ずいぶん、技術がアップしたね」とか「いつのまにか一人

で出来るようになったね」とか、仕事の中で得たものを職員と所員が確認しあう。

「ここ

まで、こられるとは自分で思っていなかった」と語った所員、「難しいと思っていたが簡単だった」と振り返った所員。「不安でいっぱいだったが、今は出来そうに思う」としんみり言った所員。それぞれに1年前とは違う自分を見つけておられた。

共同作業所が「制度移行」を迫られたここ数年、私はワークス共同作業所が行う支援が、「就労支援に繋がるものかどうか」、「余暇活動の支援か否か」、「地域活動支援とは何か」について自問自答を繰り返してきた。そして、今回の面接を通じて、ワークス共同作業所の支援は「仕事をする場の提供」であり「人間としての成長、成熟の機会の提供」であると深く感じた。思い返せば、職員の私も、作業所全体も、決してとどまることなく、変化し続けているように思う。10年前、私はこんなに所員の数が増えるとは考えていなかったし、こんな大きな場所で仕事が出来るとも思っていなかった。昨年9月に、出店用に綿菓子機を購入したが、仕事で綿菓子を販売するワークスも、それをクルクル作る自分の姿も、1年前にはまったく想像していなかった。

就労支援施設と聞いた時の一般的なイメージは、就労したい人を入所させ、その人を数年間、



何らかの支援をして送り出すというものだが、今のワークス共同作業所の支援形態は、それとは少し違う。施設自体が所員の力によって動いていて、動く列車に飛び乗ったり、降りたりする人が時々いるというようなイメージだ。制度上は支援する人と支援を受ける人に分類されているとしても、すべてが、出会いや関わり合いの中で動いているように感じる。仕事をみんなで一緒にする、その中で、いろいろなことを互いに学んだり、経験したり、練習したりするそういう場なのではないかと考えるようになった。

「工賃あげるために自分は何をしたら良いだ

ろうか」とか「私も営業がんばります」と面接で話してくれた所員の気持ちを理解し、その気持ちを実現する手だてをその方と一緒に考えることこそ、職員や支援して下さる方の姿勢であるにちがいない。所員、職員、仕事で出会ったたくさんの方々、そうした人たちが一緒になって新しいものを作っていき、そういう楽しみがワークスの中にはある、そんなことを感じた面接だった。

また、1年、たくさんの方のご支援をいただきながら、みんなで新しいことに、どんどんチャレンジし続けていきたいと思う。

職員 藤原 久実

ワークスで学ぶ事まだあります。

ワークスでは今よりももっと出来る事ようになります。これからもっと自分のペースで仕事をします。覚えてやります。やる事で自分に力を付けます。考えながら出来ます。物事を早くします。一つの事に集中すると前が見えなくなります。それを声に出してどんどん気をつけてやっています。苦手な事は練習して治します。慣れたら思い出してします。

今はもっと張り切ってします。時間に余裕があれば次の事が分かると思います。自分でやる事は自分でやります。いつも仕事分けてすればいいと思います。新しい仕事を覚える事は大変です。

ワークス来て4年余りになりますが、それも不思議です。もっと自分を信じて諦めず前に進む自信をつけます。それが希望にかかります。成長します。これから学ぶ事がたくさん増えて

きます。出来ると思う気持ちをもつ事です。探します。チャンスが自分を作ります。自分マイペースでやっていきます。笑顔で挑戦します。チャンスに失敗しても出来ると信じればチャレンジします。

これだけじゃ足りません。ワークスで学ぶ事やりながら自分に教えていきます。新しく出来る事を増やします。これからの目標は決まっています。それに向けてやっていきます。たくさん失敗すれば次の時に成功するようにまた考えてやります。いつか成功します。



鈴木 翔太

ワークス作業所への思い

最初は作業所が僕にとっては遠い存在だと思
い込んでいた。僕は重度障害があるので作業所
とは一生縁がないと思っていた。作業所は名前
の通り、何かの作業をして工賃をもらうことが
できるところと思っていた。一方では、障害者
を集めてとりあえず何かの作業をやらせると
ころとも。

12歳のころからだんだんと障害が重くなっ

てきたが、「一体どこで金もうけをしたらいい
か」と一応は働くことを頭の片隅に置いていた。
今は、障害者も自分の夢を諦めずに自分のやり
たいことが焦らずにできる、作業所がそんな場
所であつたらいいと思っている。

僕がワークスに来てよかったと思うのは、文
章が上手に組み立てられるようになったと感じ
ている点である。 山崎 信一

木下サーカスに招待いただきました。

去る1月19日(火)より、桃山城公園にて
開催中の木下大サーカス京都公演に、1回に4、
5人ずつに分かれてご招待いただきました。サー
カスを見るのは珍しく、目の前で繰り広げら
れる演技にすっかり時が過ぎるのを忘れ、空中
ブランコの目がくらむほどの高さや、オートバ
イのショーなど高度な技を次から次へと披露す
る団員のみなさんの姿が、とても印象に残りま
した。また、サーカスにつきものの動物たち、
象やキリン、吠えているライオンなどの迫力

も圧倒されま
した。一方裏
方さんの手際
の良さや、ピ
エロの間の持
たせ方にも感
心させられま
した。



本当に素晴らしい公演をありがとうございました。
山崎 理恵

やっと、花曇りでの花見

この数年ずっと、雨にたたられたでしたが、



今年
やっ
と花
曇り
の中
お花
見迎
えま
した。

梅小路公園の中は、花びらが舞い散る中、満
開の桜での酒宴の始まりです!!!

いろいろな人々が いっせいに弁当を広げ
お酒を飲んでわいわい賑わいで日ごろの憂さを、
吹き飛ばしとっても楽しい一日です。

花卉がひらひら舞い落ちる中は、とっても気
持がよくて心の中がとっても、暖かくなりました。
桜の花の時期は、とっても短く少し寂しいよう
な気もしますが、満喫した一日になりました。

小田垣 顕

今年も Barrier Free Farm 活動を始めました。

ようやく春らしくなり、京丹波町でも雪が消え、農家の協力を得て、4月5日より畑仕事を始めました。じゃがいもをはじめ、さまざまな無農薬の野菜や米の栽培し、収穫をめざす予定です。夏から秋にかけて順次収穫し、販売いたしますので、ご購入のほど、よろしく願いいたします。



名刺サンプル更新

昨年3月からワークスのホームページ内に名刺サンプルページを作ってみました。作った訳というのは名刺の注文をして頂いても、どんな名刺が出来るのかという事がお客様には解らないと、注文がしづらいのでは無いかと考えたのでどのような名刺を作っているのかを紹介しました。名刺ページを初めて1年も経ちますし、春というのは1年で1番皆様が名刺を必要とする時期ではないかと思い、今回はビジネスシーンでも使いやすい名刺のサンプルを揃えました。今回のサンプルは出来るだけ色を付けたりしないサンプルを作りました。シンプルな名刺では詰まらないというお客様も居らっしゃるだろう

から中には個性的な名刺も揃えています。どちらでもお好きなサンプルを選んで頂きご注文して頂くと幸いです。しかし悪しからず、紹介したサンプルから文字位置の変更や文字色の変更等は受け付けていません。今回紹介したサンプルからお選び頂くと通常版代として500円頂いていたお金をサンプルからご注文して頂くと版代の500円が無料となるのです。サンプルから文字の位置や文字色を大幅に変更されることをご希望される場合に限り版代の500円が必要となりますのでご注意ください。

門野 純平

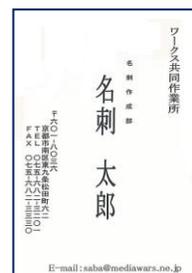
ワークスで新年度に向け名刺を作りますか？

ワークス共同作業所
名刺 太郎

〒601-8036 京都市南区東九条松田町62
TEL:075-682-3201/FAX:075-682-3330
E-mail:saba@mediawars.ne.jp
URL:http://www.mediawars.ne.jp/~saba/

10枚 200円

- 4 -



NAKAJIMA' S EYES

愛について

昔、本で読んだ事があるが、「愛」の種類には二通りあると云う。

一つは「Agape (アガペー) 無償の愛」・「Eros (エロス) 求める愛」とか、「Agape (アガペー)」は理性から発する「愛」とか「Eros (エロス)」は情念から発する「愛」と書いてあった様な覚えがある。

有島武郎・トルストイ (ロシアの文豪) 等が「愛は惜しみなく奪う、しかし愛は惜しみなく与(あた)う」とか云っていた。

この人(異性)から愛して貰おうと全てを投げ打って努力をする。大半は徒勞に終わる、「失恋」というものを経験する。精神的な大打撃を受ける。

若い頃、これを経験して 2,3 日は涙が止まらなかった。

人間は自分には無い物を異性や友達から貰い、完全な人間に成ろうと努力する。

友達への愛、特に親友に対する愛は何に属するのだろうか。

ギリシャの哲人「アリストファネス」が気紛れに口にした。

「愛と人間の起源について」の面白い寓話がインターネットに載っていた

アリストファネスは言った。

「神々がまだ若く世界も生まれたての頃、人間は今と違った姿をしていた。どの人間にも腕が4本、足が4本、顔が2つ、胴体が1つあり、

車輪のような速さで走ることが出来た。

神々はこれを見て、この生き物達が地上の支配権を自分たちから奪うのを恐れ、彼らをみな二つに切断することによって、その危機を減らそうとした。人間達は抵抗したが、神々に軍配があがり、やがて人間はみな二つに切断され、それぞれ別の人間になることになった。

こうして生まれた新しい人間には、機能的に見て何の不自由もなかった。歩くことも話すことも出来る。笑うこともスキップすることも、跳ぶことも出来る。だが、心の奥底に、騒ぐものがあつた。みな自分が半人前なのだという思いから逃れられず、もう一度一人前になりたいと強く願っていたのである。

何年も何年も別れた半身を捜し求め、無駄に終わった者もいれば、幸運に恵まれた者もいた。

そしてアリストファネスによると、これこそ愛の起源だったと云う。

愛は心の底にある強い憧れであり、完全になりたいという願いであり、自分とぴったりの相手にめぐり合えた時には、故郷に帰ってきたような気がする。

それは、こういう理由があるからだ」とか…寓話に過ぎないのだけれど、面白い寓話である。

多分「別れた半身」、これが「異性」だと私は解釈する。



ワークス製オリジナル

2010年カレンダー

最終販売

処分値

1セット 250円

残りわずか

防災訓練

先日、3月3日（水）午後から防災訓練がありました。

所員の河野さんが、消防署に模擬電話で火災が発生した時の連絡方法を学び、実際には



慌てて住所などが言えないことがあるので、電話の近くに住所などが書いた紙など

を貼っておくとよいと教えていただきました。出火原因は放火が多く、建物の周辺に燃えやすい物を置かないことや、寒い季節は暖房器具の取り扱いに気をつけ、ストーブのそばなどに洗濯物や燃えやすい物を置かないようにとのことでした。そして最近、世界各地で大きな地震が起きているので、京都でもいつ起きてもおかしくないので、日頃から避難用具を用意しておくこととおっしゃっていました。

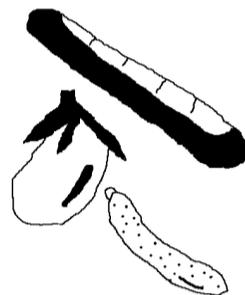
最後に所員と職員で、消防団の方に教わりながら消火器で消火訓練をして終了しました。

山中 泰紀

みなさんも日頃から火の元には気をつけましょう

あしあと

- 1月19日（火）～26（火） 木下サーカス見学
- 2月 8日（月） ほていまつり 出店（毎月8日）
- 2月13日（土） 亀岡PC教室（毎月第2、4土曜日）
- 3月 3日（水） 消防訓練
- 4月 5日（月） バリアフリーフォーム 今年の農作業始め
- 4月 7日（水） お花見会



編集後記

BUGも50号を迎えました。節目の号の編集に指名され当惑しておりました。編集はなかなか進まず、2月は逃げ、3月も去り早くも4月になってしまいました。多くの人の支援を受けてようやく発行にこぎつけることができました。

3月に行われたパラリンピックでは75歳の選手ががんばっておられた。その選手は残念な

がらメダルにはとどかなかったが、日本の選手は多くのメダルを得ることができた。私たちも、まだまだがんばらなければならない。

当ワークス作業所では今後もBUG100号、200号…の発行をめざしていきたいと思っております。大勢の方々に継続して読んでいただける事を望んでおります。 伊藤 壽一